強い風や大雨による災害が起こるときのリスクシナリオ

補足説明：高潮:海の水が高くなる／洪水:川の水があふれる／土砂(土砂災害):山やがけから、石や土がたくさん落ちてくる

※このシナリオは、台風による1,000年に1度くらいのとても強い風や大雨による災害が起こった場合の被害を想定しています。
シナリオに書いてあることは、風や雨によるいろいろな災害の例であり、実際に起こる状況とは違うかもしれません。

説明のための例：▼できごとなど／▼▼災害についての情報など／■起きそうなことや被害など

リスクシナリオの動画を作りました。見てください！

時間 ／ 雨・風・川の様子

雨の降り方

- 1時間に10～20mmの雨
- 1時間に20～50mmの雨
- 1時間に50mmより多い雨

風の吹き方

- 風の速さの平均15～20m/s
- 風の速さの平均20～25m/s
- 風の速さの平均25m/sより強い

風の速さの平均:10分間の平均値

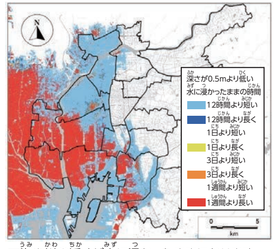
強い風が吹く様子

▼一番強い風の速さ 30～40m/s

▼一番強い風の速さ 40～60m/s

一番強い風の速さ:3秒間の風の速さの平均値

海の水が高くなり水に浸かったままになる



▼海や川の近くが水に浸かったままになります。

天気の情報／災害の情報

▼台風予報発表

補足説明：台風の進み方や強さのお知らせ

▼警報(暴風・高潮)

補足説明：警報:大きな災害が起こるかもしれないときに注意を呼びかける情報(暴風:とても強い風)

▼特別警報(暴風・高潮・波浪)

補足説明：特別警報:大きな災害が起こりそうなときに注意するように呼びかける情報(波浪:高い波)

▼警報(大雨・洪水)

▼竜巻注意情報

補足説明：かみなり雲の下で急に吹く強い風に注意するための情報

▼暴風域に入る

補足説明：速さの平均25m/sより強い風が吹く範囲

補足説明：山やがけから、石や土がたくさん落ちてくる災害に注意するための情報

▼土砂災害警戒情報

▼洪水予報(氾濫注意～氾濫危険)

補足説明：川の水の高さがどうなるかの予報(水があふれたときの逃げ道を確認する～水があふれそうになっているので安全なところへ逃げる)

▼記録的短時間大雨情報

補足説明：何年かに一度しか降らないような大雨が短い時間に降っているという情報

▼特別警報(大雨)

▼氾濫発生情報(洪水・高潮)

補足説明：川の水や海の水があふれたので急いで安全なところへ逃げなさいという情報

▼土砂災害警戒情報がなくなります。

▼警報・注意報がなくなります。

名古屋市

▼市民に必ずいる情報をその時々に発信します。

▼しなくてもよいことや急ぎでないことでは出かけるのを控えるように呼びかけます。

▼警戒レベル3　高齢者等避難(高潮)

補足説明：年を取った人などは危険なところから逃げなさいという呼びかけ

▼警戒レベル4　避難指示(高潮)

補足説明：危険なところから逃げなさいという指示

▼水門を閉めたり、土のうを積み上げたりします。

▼警戒レベル4　避難指示(洪水・土砂)

▼警戒レベル5　緊急安全確保

補足説明：急いで安全なところへ逃げなさいという指示

▼被害の様子を確認します。

▼災害にあった人を助けて、その人が誰かを確認します。

▼川や海の水を防ぐ壁を直したり、水を外に出したりします。

▼災害で出たゴミの置き場所を決めたり、集まったゴミを処分する場所へ運んだりします。

▼ボランティアを受け入れます。

▼災害にあった人へのいろいろな助けについて情報を知らせます。

▼家の被害を調べることをはじめます。

▼災害にあったことを証明する書類の受付をはじめます。

被害が大きくて、災害にあった人を助けるのに長い時間がかかるかもしれません。

時間 ／ 緊急避難場所／避難所

補足説明：命を守るために災害の危険からすぐに逃げる場所

補足説明：自分の家が災害にあって帰れない場合、しばらくの間、生活するところ

▼緊急避難場所が開きます。(早めに避難する人を受け入れます。)

補足説明：1)災害の情報をすぐに知らせるメール　2)みんなに情報を知らせる車

▼緊急避難場所が開きます。(避難するための情報を聞いた人が避難します。)

■避難場所がとても混むかもしれません。

▼市からの高齢者等避難(テレビ、ラジオ、ホームページ、SNS、緊急速報メール[1]、防災スピーカー、広報車[2])(高潮)

▼市からの避難指示(高潮)

■潮を巻くような強い風で窓ガラスや屋根が壊れます。

■歩けないほどの強い風と飛んでくる物で避難が難しくなります。

■風の影響で電気が止まったり、電話やインターネットがつながらなくなったりします。

■山やがけから石や土がたくさん落ちてくる危険が高くなります。

■ため池(普段水をためてあるお池)が壊れるかもしれません。

▼市からの避難指示(洪水・土砂)

■避難するのが遅くなると、他の場所へ行く途中で災害にあうかもしれません。

自分の家

▼テレビなどで台風の情報が流れます。

《雨で川や下水道があふれます。海の水が町に入ってきます。山やがけから石や土がたくさん落ちてきます。》

■逃げ遅れると家の中に水が入ってきたり、石や土がたくさん落ちてきたりして被害を受けるかもしれません。

■町の中に水が入ってきたところやその近くで水道、電気、ガスなどが使えなくなるかもしれません。

■スマートフォンなどが使えず、助けを求めることができないかもしれません。

■被害の少ないところに災害にあった人がたくさん集まります。

■電気が止まったところでは、テレビで情報を見たり、明かりやエアコンを使ったりできません。

■エアコンが使えないので、暑くて体が悪くなるかもしれません。

■慣れない生活で、年を取った人が病気になります。病気の人は病気が悪くなります。

■水が足りなかったり、長い間動かないでいたりするため、血が固まって病気になります。

■避難した人がたくさんいて、物が足りなくなります。

■プライバシーやペットなどの生活のルールでトラブルが増えます。

■強い風で移動が難しいままです。

■町の中に水が入ったところでは、町が水に浸かったままです。

■水道、電気、ガスなどが使えません。暑さで体が悪くなったり、動かない生活で体が弱くなったりする人が増えます。

■マンションの中に水が入ったことや電気が止まることで、マンションのエレベーターが使えなくなります。

■長い間町の中に水が入ったままのところでは、家の外に出られません。上の階に避難した人も物が足りなくなります。

■水に浸かったままの状態が長く続くと、自分の家で生活できない人が、避難所へ行きます。

■水が入ってこわれた電気器具に電気が通って火事が起こるかもしれません。

■被害が大きくて、助けてもらえないかもしれません。

その他(学校・会社・出かけた場所など)

▼テレビなどで台風の情報が流れます。

▼学校や会社が休みにすることを考えます。

▼学校や会社が休みになるかもしれません。

▼外に出ると危ないときは、学校にいる子どもは学校の中で待ちます。

■多くの人が避難するので、道路が混んでではやく進めなくなります。

■物をたくさん買う人が増えて、スーパーなどの品物が少なくなります。

■電車やバスが使えなくなり、家に帰るのが難しくなります。

■電車が止まり、駅などに人が集まります。

※いるところによっては災害にあうかもしれません。

※被害の様子は場所によって違います。

■電話やインターネットがつながらなくなり、情報がよく伝わらなくて、混乱します。

■スマートフォンのバッテリーが切れて、家族と話したり情報を見たりすることができなくなります。

■病院に水が入ってきたり、電気や水道が止まることが続いたりすると、病院で病気やけがをなおしてもらえなくなります。

■スーパーなどが休みになり、物や食べ物を買えなくなります。

■町の中の水がなくなったところでは、片付けがはじまります。たくさんのゴミが公園や道路に出て、臭いがしたり通りにくくなったりするかもしれません。

▼学校や会社では片付けや手続きに時間がかかり、授業や仕事をはじめるのが難しいままです。

避難したところでの生活が長くなると、周りをきれいにできなくなり、うつる病気が広がるかもしれません。心の疲れなどで亡くなる人が増えるかもしれません。

時間 ／ 道路や鉄道

生活に必ずいるもの(水道と下水道、電気、電話・インターネット、ガス)

▼電車などの運行が止まるかもしれないと知らせます。

地下鉄やバスも止まるかもしれません。

▼電車などの運行が止まる予定を発表します。

▼予定していた電車などを止めます。電車やバスが動いているかを知らせます。

■風が強いために電気が止まったり、電話やインターネットがつながらなくなったりするところがあります。

■倒れた木などで道路が通れなくなります。

▼どの道路が通れるか、通れないところがあるかなどを知らせます。

■線路や道路の下を通る道路や低い場所が水に浸かります。

■道路が途中で通れなくなります。

■町の中に水が入ったところやその近くで水道、電気、ガスなどが止まるかもしれません。

※水や電気を送る建物が被害を受けると、町の中に水が入っていないところでも水道や電気が使えなくなります。

■道路や鉄道の広い範囲に水が入ってきます。

■電気が止まっているところでは信号が止まります。

■道路に壊れた車やゴミが散らかります。

▼水道、電気、ガスなどが使えるか、いつから使えるようになるかを知らせます。

▼災害のときに使う車や機械などを使って急いで直します。

■町のいろいろなところで道路が混んではやく進めなくなります。

▼少しだけ水が入った家で電気が漏れていないか調べます。

■地下鉄にたくさんの水が入ったところでは、元に戻すのに時間がかかります。

▼電車の代わりの乗りものについて知らせます。

▼元に戻す活動を続けます。

▼【鉄道】元に戻ったところから電車が動きはじめます。

▼【道路】通れないところを少しずつなくします。

水道、電気、ガスなどや道路、鉄道の大きな被害で、長い間生活が大変になるかもしれません。

写真と画像の情報の元：写真と画像の情報の元は、右に記載の通りです。未記載のものは名古屋市資料に基づきます。　①日本版改良藤田スケールに関するガイドライン(気象庁)　②気象業務はいま2022(気象庁)　③災害列島2000－都市型水害を考える(国土交通省)　④災害廃棄物情報プラットフォーム(国立環境研究所)　⑤過去の主な災害時の情報発生状況(気象庁ホームページ)　⑥平成30年７月豪雨災害記録誌(岡山県)　⑦災害廃棄物対策フォトチャンネル　⑧2004年7月13日新潟集中豪雨の記録(電脳企画室 ZOOM)　⑨ (一財)消防防災科学センター